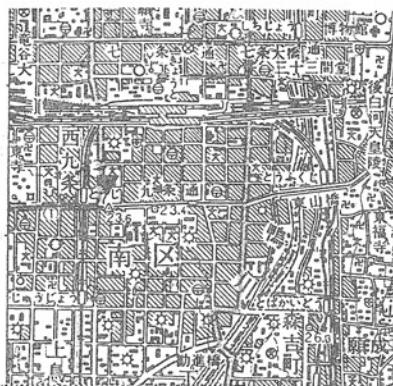


## 京都・平安京左京九条一坊十三町

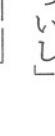
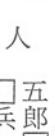
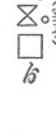
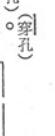
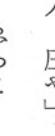
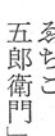
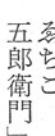
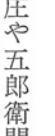
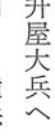
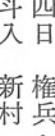
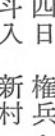
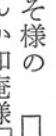
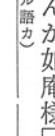


- |   |               |  |
|---|---------------|--|
| 1 | 所在地           | 京都市南区西九条春日町一九  |
| 2 | 調査期間          | 一九八四年(昭59)五月～九月  |
| 3 | 発掘機関          | 妙京都市埋蔵文化財研究所   |
| 4 | 調査担当者         | 丸川義広・木下保明・辻 裕司   |
| 5 | 遺跡の種類         | 都城跡  |
| 6 | 遺跡の年代         | 平安時代前期、鎌倉時代、江戸時代前期   |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 十三町の中央部から西部にかけて、町内の四分の一ほどの面積を調査した。平安時代前期では、油小路東側溝、町内の中央を南北に流れる流路、それに東部に池のような遺構を検出した。<br>(1) (2)の木簡は、斎串・人形・漆器・下駄などと共に、幅一六m、深さ四五mの流路から出土した。鎌倉時代では、建物跡と井戸一二基が主要な遺構である。<br>油小路東側溝のすぐ東に |
| 8 | 木簡の釦文・内容      | 江戸時代のものはくずし字が多く難解で、川嶋将生氏(京都市歴史資料館館員)に判読を依頼した。以下は、氏の釦文を梅川が補ったものである。   |

- (1) 「□□ □□□□
- ・「知明日寅」〔時カ〕  
〔参〕 (95)×(15)×2 081 ハキ 882
- (2) 「尔尔尔尔
- ・「(穿孔) 久井」〔穿孔〕  
〔久井〕  
〔まわや〕  
〔利左衛門〕 (80)×(16)×3 081 ハキ 888
- (3) 「(穿孔) 品」〔品〕  
〔五〕  
〔五り〕 106×25×4 011 ハキ 055
- (4) 「□品 内」〔品〕  
〔内〕 108×(15)×3 011 ハキ 128

幅10m、深さ1・5mの濠があった。この濠は天正一九年(一五九一)豊臣秀吉によつて築造された、当時の京全体を囲む御土居の外濠である。(3)以下の墨書き類のほか、工具・容器・装身具・文具・家什具・生産具・建築材など多彩な木質遺物が出土した。

1984年出土の木簡

- (5) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         121×33×9 011 トキ 213
- (6) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         (鉢形)  
         • 「」  
             (鉢形)  
             • 「」  
                 67×21×2 011 ナヘキ 520
- (7) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         年巳 人  89×18×1 011 ナヘキ 606
- (8) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         172×22×4 011 ナヘキ 884
- (9) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         151×26×6 011 ナヘキ 885
- (10) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         180×34×5 032 ナヘキ 838 \*
- (11) • 「」  
     76×20×2 011 ナヘキ 886
- (12) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         90×13×2 032 ナガ 121
- (13) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         五  三入 庄や 139×31×4 032 ナヘキ 146
- (14) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         あやか殿  五郎衛門 79×16×3 032 ナヘキ 369
- (15) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         庄や五郎衛門  
         升屋大兵く 95×32×2 032 ナウヤマキ 605
- (16) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         せんか如庵様  182×21×8 033 ナキ 285
- (17) • 「」  
     (鉢形)  
     • 「」  
         「」  
         mairu 182×21×8 033 ナキ 285
- 〔十一田  衛門〕 70×21×2 032 ナヘキ 053



(29) 「寛文戊□

(154)×19×9 019 ャ 837

(30) 寛文九年」(縦刻)

(115)×15×7 061 タケ 887

(31) □[宝]11年 池田屋

(101)×(24)×5 081 ハノキ 296

(27)は巡礼札、(28)は捺札である。(29)は曲物蓋、(30)は箱、(31)は板に墨書、(30)は茶杓の柄に線刻したもので、このほか年紀を記したもののが幾つかある。また、三~四方の厚めの材に人足名を記した人足札、糸巻に所有を示す人名を記したもの、曲物側板に「上候 ト地 とりめ 二貫文の 代拾匁」と墨書のあるもの、木製容器の蓋に「はま なつとう れん□」と記したもの等があり、当時の雇用労働・経済活動を知る資料として興味深い。

(梅川光隆)

## 木簡研究 第11号

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——  
一九八〇年出土の木簡

大庭 倩

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 碑田遺跡—下ッ道— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

### 一九七七年以前出土の木簡 (3)

平城宮跡(第二二次・第二三次北) 薬師寺 下岡田遺跡

### 中国における簡牘研究の位相

庸米付札について

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について  
草戸千軒町遺跡出土の木簡—形態を中心に—

原秀三郎  
志田原重人

彙報

価格 三五〇〇円 二四〇〇円